

現代日本論演習 II

「現代日本文化研究」 (2001 年度第 2 学期) 3 年生対象
<木 2 > 観察室 (文学部・法学部合同研究棟本館 2F)

授業の概要 (予定) 10/10 現在

授業の目的

- 論文の探しかたを習得する
- 論文の読みかたを習得する
- プレゼンテーションの方法を習得する
- 現代日本文化についての知識を深める

※「現代」というのは、およそ 1970 年以降のことと考えてください。

目次

- イントロダクション (10/11)
- 「雑誌記事索引」による論文検索 (10/18)
- 各論文の報告 (10/25～1/24)

成績評価について

- 毎回の報告と質問によります。

参考書

- 諏訪 邦夫、1995『発表の技法』(ブルーバックス) 講談社、ISBN 4-06-257099-8。

授業中に使うわけではありませんが、プレゼンテーションをおこなう際の参考になるはずです。生協 (文系書籍部) に入荷しているので、各自で購入して読んでおいてください。

その他の参考文献

- 藤沢 晃治、1999『「分かりやすい表現」の技術』(ブルーバックス) 講談社、4-06-257245-1。
- 木下 是雄、1981『理科系の作文技術』(中公新書) 中央公論新社、ISBN 4-12-100624-0。
- 化学同人、1994『若い研究者のための上手なプレゼンテーションのコツ』化学同人、ISBN 4-7598-0260-6。

各論文の報告

ひとつの論文について、つぎの 4 つの観点から報告をしてもらいます。

- ロジックの抽出 (結論とその根拠)
- 構造の抽出 (目次)
- 図表の解説
- 鍵概念の抽出

これをひとりずつで分担して、計 4 人でひとつの論文を担当します (受講者数が多い場合は、もうひとつ「批判的コメント」という観点をいれるかもしれません)。

ひとりの報告は 10 分で、それに対する質疑の時間を 20 分とります。

1 回の授業でふたりの報告をおこないます。つまり 1 本の論文を 2 回にわけて検討することになります。

報告者は、配布資料 (ハンドアウト) と提示資料 (OHP シート) を用意してください。

- 配布資料は人数分のコピーを用意します (研究室のコピー機を使ってください)
- OHP シートは研究室所蔵のものを使ってください。紙に原稿を用意しておいて、手差しで OHP シートにコピーするのが簡単です。
- 10 分におさまるように事前に練習をしておいてください。

報告者以外の人、論文を事前に読んで、質問を考えてきてください。報告のあとの質疑のときに手を挙げて質問するのが標準ですが、報告途中で質問してもかまいません

各論文の担当

- 松信 ひろみ、1995「二人キャリア夫婦における役割関係」『家族社会学研究』7: 47-56。
- 〔これ以降は受講者が選んだものから 5 本をピックアップ〕

論文	日付	担当する 観点	担当者の 氏名
論文 1	10/25		
	10/25		
	11/1		
	11/1		
論文 2	11/8		
	11/8		
	11/15		
	11/15		
論文 3	11/22		
	11/22		
	11/29		
	11/29		

論文 4	12/6		
	12/6		
	12/13		
	12/13		
論文 5	12/20		
	12/20		
	1/10		
	1/10		
論文 6	1/17		
	1/17		
	1/24		
	1/24		

2001.10.11

現代日本論演習 II

現代日本文化研究

東北大学文学部 2001 年度
田中 重人 (講師)

1

【目的】

- 論文の探しかた
- 論文の読みかた
- プレゼンテーション
- 現代日本文化の知識

2

【予定】

- イントロダクション (10/11)
- 論文検索 (10/18)
- 各論文の報告 (10/25～1/24)
1本につき4人で2週間

3

★論文は最初の1本だけ用意している：

松信 ひろみ、1995「二人キャリア夫婦における役割関係」
『家族社会学研究』7: 47-56。

2本目以降は受講者が選んだものから。

(計6本の予定)

4

【論文の読みかた】

- ★ ロジック (結論—根拠)
- ★ 構造 (目次)
- ★ 図表
- ★ 鍵概念 (定義・用例、類義語)

5

【報告の準備】

- ★ 提示資料 (OHP またはパソコンなど)
 - ・ OHP シートは横に使う
 - ・ 文字は大きく (最低でも 20pt)
 - ・ 飾りのない文字 (ゴシックなど)
 - ・ 文章をすくなく、図を多く

6

★ハンドアウト (配布資料)

- ・ OHP よりも詳しい情報を
- ・ 論文として体裁を整えるのが望ましい
- ・ 日付・授業名・報告者名・所属を書く

7

【プレゼンテーション】

- ★ 組み立てをよく考えて、練習する
- ★ 報告用原稿をつくるか、提示資料のコピーにメモを書いておく。
- ★ 時間を厳守すること

8

- ★ 画面の指示のしかた
(指示棒/Laser Pointer/シート上の操作)
- ★ 聴衆の反応を見ながら話すこと
- ★ 聴く側も報告者の顔を見て反応を返す

9

1. 論文をさがす
2. 雑誌の所在をさがす
3. 雑誌の入手
4. 書誌情報

1

【論文をさがす】

国立国会図書館「雑誌記事索引」

- ・ 雑誌数 1 万以上、採録記事 300 万件以上
- ・ 出版からほしい 2 月以内で収録される

東北大学ではオンラインのサービス (日外アソシエーツ) を試験利用中 (2002 年 3 月まで)

<http://www.library.tohoku.ac.jp/dbsi/zassaku/za.html>

2

- ★同時に 4 人しか使用できない
- ★終了時はかならず **LOG OUT** すること
- ★1,000 ヒットを超えると一覧表示できない

3

その他のデータベース :

- 日本語教育学研究室のもの
<http://localnet/> から
(研究室内からのみの利用)
- 「生成する目録」記載のもの
<http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/BIBLIO/>
(岡本真さんによる文献データベース集)
- その他 (配布資料参照)

4

【雑誌の所在をさがす】

東北大学内の所蔵 ➡ 図書館 OPAC 検索

<http://www.library.tohoku.ac.jp/T-LINES/opac/index.html>

ISSN を控えておいて「詳細検索」で引くのが便利

他の大学図書館などの所蔵 ➡ Webcat 検索

<http://webcat.nii.ac.jp/> (by 国立情報学研究所)

NACSIS ID を控えておく (AN10091189 のようなやつ)

5

【雑誌の入手】

東北大学図書館本館にある ➡ 借り出し

たいてい 2 号館にある

東北大学内の研究室など ➡ きいてみる

貸してもらえないことも

他の大学図書館など ➡ 複写または貸借

レファレンス・デスクへ (有料)。

6

【書誌情報】

書誌情報 = 文献を特定するのに必要な情報

・ 著者名 ・ 出版年
・ 論文表題 ・ 雑誌名
・ 巻,号: 掲載ページ

- ★雑誌発行者は通常は不要
(雑誌名だけで特定できる場合)

7

書誌情報の書きかたの一例 :

松信 ひろみ、1995「二人キャリア夫婦における役割関係」
『家族社会学研究』7: 47-56。

- ★ 雑誌に関する重要な情報は、たいてい表紙にある
(まれに表紙裏にあることも)
- ★ 複数のページ付けが共存していることがある。
その場合、どれを採用するかをよく考えること。

8

【課題】

現代日本文化に関する論文で自分の興味にあうものを 2 本さがし、書誌情報を書いて提出。

- ★ 来週までに現物を入手して提出
(複写等で時間がかかる場合は再来週まで)
- ★ 複写等の費用がかかった場合は
領収書をとっておくこと

9

1. キーワードのえらびかた

2. 雑誌論文の種類

1

【キーワードのえらびかた】

「雑誌記事索引」にはいろんな雑誌があるので、
日常的な単語で検索すると、学术论文はヒットしにくい

▶ 適切なキーワードをえらぶ必要がある。

そのためには、その分野の研究を
ある程度知らないといけない

2

ある分野の研究にはじめて踏み出すときは、いきなり雑誌
論文を探すのは得策でない。

入門書をさがしたり、くわしい人(教員・院生など)に聞
いてみるのがいい。

3

【雑誌論文の種類】

- ★ 雑誌の性質 ……
Peer Review 制の雑誌か？
- ★ 原著論文・研究ノート・調査報告…
- ★ 投稿論文と依頼論文

4

【Peer review という制度】

投稿された論文を雑誌にのせるかどうか：

- ・ 新しい内容か？
- ・ 有用性はどの程度あるか？
- ・ 内容は正しいか？

▶ 専門家による審査 (review) で決める

5

通常の審査の手続き：

- ★ 論文のテーマにふさわしい審査員をえらぶ
- ★ 審査員にまわして判断を求める
- ★ 審査員が一致して「掲載可」といえばそのまま掲載
- ★ 一致して「掲載不可」ならのせない
- ★ 意見が割れた場合は編集委員会が判断
- ★ 「条件付」の場合は書き直して再提出・再審査

6

Peer review をおこなっている雑誌は権威が高い。
ただし掲載まで時間がかかる。
独創的な論文は載りにくくなる可能性がある。

7

【原著論文その他】

- ★ 原著論文 (ふつうの論文)
- ★ 研究ノート・調査報告など ……原著論文よ
り質は落ちるが、速報性を要求されるもの

8

【投稿論文と依頼論文】

投稿論文……通常の手続きで投稿し、審査を
経て掲載。

依頼論文……編集委員会からの依頼を受けて
書く(テーマのきまった特集論文など)。
審査のある場合とない場合がある。

9